

台湾新聞

TAIWAN NEWS ◆ 2017年4月3日号 東京発行 NO.240

発行元: 有限会社 台湾新聞社 〒171-0021 東京都豊島区西池袋 4-19-4 TEL: 03-5917-0045 FAX: 03-5917-0686 http://www.taiwannews.jp E-mail: info@taiwannews.jp
■定期購読をご希望の方は台湾新聞社までお問い合わせ下さい。 定価 350円(税込) 定期購読 12回: 3,500円(税込) / 24回: 7,000円(税込) ●郵便振替: 00140-4-594168

台湾8都市県長らが訪日 — 農産物「安心安全」をPR —

「FOODEX JAPAN2017東京国際食品店」の開催に先立ち3月6日、台湾行政院農業委員会(以下:農委会)と高雄市政府主催の合同記者会見「2017台湾農産物ならではの味わい」と題したPRイベントが千葉県幕張市のマンハッタンホテルで行われ、FOODEXに初参加となる嘉義市、台中市、新北市など8都市の県長、市長らが参加した。FOODEXの台湾からの出展者数は129社と対前年比で15%増。2012年の台湾業者が初出展して以来、過去最大数を誇った。

記者会見で、高雄市の陳菊市長、新北市の葉惠青副市長、台中市の林佳龍市長、雲林県の丁彦哲副市長、嘉義県の張花冠市長、嘉義市の涂醒哲市長、台南の張政源副市長、屏東県の潘孟安市長は、自らの土地で生産した農林水産物や食品の「安心安全」をPRした。

主催者の一人である農委会の林聰賢主任は、以前台湾からの輸入を禁じられていた「インドなつめ」及び「ポンカン」が解禁され、日本市場に参入できるようになり、さらには日本の学校給食にも提供されている事に言及し、今後も多くの日本の消費者に最も優れている台湾の農産物を選んで欲しい、と訴求した。また、「今後手に取った食材の産地が、『台湾』と記載されていたらどうか安心して欲しい。そして今後、日台の友好関係を築いていく上で産地に視察に来て欲しい」と話した。



県市長ら記念撮影

来賓の台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表、中華民国対外貿易発展協会の黄志芳理事長は祝辞を述べ、謝代表は2月24日より日本で実施されている「プレミアムフライデー」に際し、「土日含めた2.5日の連休にどの国への渡航が一番多いか」との大手旅行会社JTBが実施した調査で、「台湾が最多」と発表。台湾を選んだ理由を「台湾の美食を求めて」とした。謝代表はこの結果を受けて言及し、「台湾料理が注目されている今、今年の展示会では台湾農産物の販売促進や

宣伝する絶好のタイミングである」と強調。「友達を友達を通じて台湾の食品や全てのものを発信して欲しい」と述べた。

また黄理事長は、2016年の台湾から日本への輸出額は7.9億米ドル、一方、日本からの輸入額は10.11億米ドルだった事を発表し、日本は台湾にとっての第2の食品輸出国であり、台湾の第2の輸入国であるとし、今後も互いに補い合う余地が必要だと指摘した。さらに、「日本は農産物栽培技術や加工産業発達が優れており、

それは台湾が見習う分野であり、同展を通じて両国互いにビジネスチャンスが広がる事に期待したい」と話した。

また、同記者会見には、先日日本卓球の福原愛選手と結婚した今回のPRイベントのイメージキャラクターでもある台湾卓球の江宏傑選手もスペシャルゲストとして参加。「日本の市場に台湾の優れた農産物を紹介できる事は大切な事。台湾の農産物も日本の農産物も一番!」と話し、さらには高雄市のパイナップル、台南市の胡麻、嘉義市のピーナッツ等台湾農産物を使用したサラダ作りを実演した。このサラダは福原選手も大好きだという。普段は福原選手が作る事が多いと緊張気味に話す等、私生活についても触れた場面もあった。

なお、同記者会見には各都市の物産も展示され、参加した製造業者らが各々PRを行う



江選手はお手製のサラダを披露

TOPIC	
日本語版	
●台中林市長、小池都知事と会談	2面
●東京タワーで開催の台湾祭、多勢来場者で入場制限も	3面
中国語版	
●2017東京食品展 8都市市長推銷台湾農特産 江宏傑助陣	4面
●謝依愛連成五連霸獲名譽女流棋聖 首位三項名譽頭銜女棋士	5面
●日本台湾祭2017	8面



た。なかには同じ都市同士ユニフォームを揃えるなど、団結を強調している都市もあった。「FOODEX JAPAN2017東京国際食品店」は3月7日から10日までの期間、幕張メッセで開催された。

謝代表、震災六周年追悼式で哀悼の意を表す

東日本大震災から6年となる3月11日、日本政府主催の「東日本大震災六周年追悼式」が東京都千代田区の国立劇場で行われ、台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表が参列した。

式中謝代表は、献花台に花を供え、犠牲者とその遺族に哀悼の意を表した。また式終了後は、日本と台湾は頻りに自然災害が発生するが、近年では大規模災害が発生した際、日台は第一に救助し互いを気遣っており、この事は他国協力の模範であるとした。また、「今後は経験や情報の共有を通じ防災協力体制を強化し、災害対応能力を高める事に期待」と述べた。

なお、同式には秋篠宮ご夫妻や安倍首相、遺族の代表およそ900人が出席し、地震が発生した午後2時46分に出席者全員が黙祷を捧げた。

安部首相は、「災地に足を運ぶたび、震災から6年を経て復興は着実に進展している事を実感。インフラの復旧がほぼ終了したほか、復興は新たな段階に入っており、さらなる復興へと加速して参る」と述べた。

FOODEX JAPAN2017に台湾過去最大数の出展



保障責任雲林農新湖合作農場が加工栽培した野菜。今年で42回目となるアジア最大級の国際食品飲料展示会「FOODEX JAPAN2017東京国際食品店」が3月7日から10日までの4日間、幕張メッセで開催された。

台湾からは、今年初参加となる嘉義市、台中市、新北市のほか、高雄市、雲林県、嘉義県、台南市、屏東県の8つの都市から、出展業者数は129社に達し、2012年に台湾業者が出展して以来、最大規模だ

た。さらに、今年の台湾館パビリオンの面積は1500㎡を超えと出展国77ヶ国中4番目であった。

初日の8日には台湾館パビリオンで開幕式が行われた。高雄市の陳菊市長、台中市の林佳龍市長、嘉義市の涂醒哲市長、嘉義県の張花冠市長、屏東県の潘孟安市長、新北市の葉惠青副市長、台南市の張政源副市長、雲林県の丁彦哲副市長のほか、台湾行政院農業委員会(以下:農委会)の林聰賢主任、台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表、中華民国対外貿易発展協会(以下:外貿協会)の黄志芳理事長、經濟部国債貿易局の徐大衛副局長が参加し、テープカットを行った。經濟部国債貿易局の徐副局長は、「今年には日本だけではなく、韓国や東南アジア等13ヶ国の食品展示会に出展予定で、台湾の食品を紹介していきたい」と意気込みを語った。農委会の林主任は、

「今年には台湾プロモーション国家チームとして参加しており、生産や加工の品質管理を行っている。単に美味しいだけではなく、人情あふれる台湾の味を楽しんでほしい」と述べた。

また、台湾館パビリオン主催者でもある高雄市の陳市長は、「今年には農委会によって8都市を招く事ができ、過去最高の規模となった。高雄市政府は型農のオーナーや農業専門家を招き、同展に参画している」と説明したほか、「高雄市の健康で安全な農産物を提供する」と話した。

台湾各地のグルメ、日本上陸目指す

多くの出展業者の参加目的は日本の代理店探しであった。まだ日本に代理店がない業者が大部分を占めるが、昨年冬に100万トンの野菜を日本に輸出している「保障責任雲林農新湖合作農場」のように、代理店を増やすために参加している企業も少なくない。この

農場はオーダー制による加工栽培を手掛けており、オーダー後わずか4日で日本に商品が届く。目下、多数の日本大手チェーン飲食店が利用しているとの事。しかし、現在台湾国内シェアが95%で、輸出は残りの5%にとどまる。今後は輸出を伸ばしていきたい構えだ。

また、金三峽食品有限会社の林芳民社長は「現在台湾で人気のある商品は全て賞味期限が短いため、今後、日本向けには商品開発が必要となる」と指摘。日本で自社製品を売り出したいとする一方で、現実の問題も伴ってくるとした。

なお、同展はBtoB(企業間取引)を展示の主力としているが、台湾の味を認知させる狙いから、来場者向けの試食品の提供も行っていた。一般的なパイナップルケーキとは一味違うものを提供するなど、初めて食べる台湾のグルメに、来場者も笑顔で「美味しい!」と言いつつ業者と話している場面も多々見受けられた。

プラスの力になる
台湾新聞
続けて読むから「台湾」が解る
台湾のとれたて情報を毎月お届け。

年間定期購読

毎月第1月曜発行

お得01 送料無料でお届け!

お得02 1年契約で700円お得!

※12回発行で購読料3,500円(1部350円×12=4,200円)

～お申込みはかんたんです(住所:電話番号:お名前:契約月)～
お申込み窓口 (TEL03-5917-0045 FAX03-5917-0686) まで
メールでも受付中! (info@taiwannews.jp)

絶賛発売中!! 台湾あります

日本で堪能できる台湾料理のお店を厳選して掲載しました。

店頭で使えるおトクなクーポン付き

家庭で作れるかんたん台湾料理レシピ付き

Delicious Taiwan vol.2
日本で食べる! 本場のおいしい台湾料理

お問い合わせ
台湾新聞社 台湾新聞編集部
03-5917-0045 info@taiwannews.jp

¥1,500+税

EVA AIR 5 STAR AIRLINE SKYTRAX

エバー航空

航空業界 最高評価 SKYTRAX 5スターエアライン

エバー航空についてのおトクな情報はこちらをチェック!

HP Twitter Facebook

台中林市長 小池都知事と会談



記念撮影する林市長(左)と小池都知事

台中市の林佳龍市長は3月8日、東京都庁を訪問し、小池百合子東京都知事と会談を行った。林市長によると、今回の訪問目的は2つあるとし、「小池都知事に是非2018年に開催する『台中フローラ世界博覧会(以下:花博)』へ来てほしい。また、東京オリンピック時の環境保護や交通計画が進んでおり、2019年に台中で開催予定の『東アジア・ユース大会』の参考にすべく、小池都知事にご教授頂きたい」との趣旨の下、会談は行われた。

小池都知事は台中は以前から密接な関係にあった。1999年に台湾中部で起きた921大震災時には、小池都知事は数人の国会議員と共に台中を訪れ支援し、地震の影響を受けた台中日本人学校の再建設が完成した際には、再び台中に足を運び、子供たちと一緒に桜の花を植樹したと明かした。小池都知事は「桜も当時の子供たちも大きく成長しているように、台中との連携もさらに大きくしていきたい」と語った。

さらに小池都知事は、東京都知事当選時に林市長より賀詞が送られて

きたことや、東日本大震災や熊本大地震が起きた際、数多くの支援物資を提供してくれた事に対し感謝の意を述べた。

林市長はこれに対し、台湾は日本が911震災時に援助や見舞ってくれた事に対して今もお感謝しているとし、一方、東日本大震災時には「兄弟が受けた痛み」のような気持ちになったと当時の心境を語った。また、林市長は2004年に小池都知事が当時環境大臣だった時にも一度小池都知事を訪問した事があり、その頃から小池都知事の政治上の貢献やリーダーシップ力に関心を持っていたと話した。

小池都知事は、台湾はスポーツ、文化、食品、花と様々な分野で活躍している事が大変喜ばしいとし、最後には「東京都は11つの島もあり、各島巡りのツアーも計画しているの、是非台中の旅行客が日本に遊びに来てほしい」と述べた。

なお、会談開始前林市長は、訪問日の8日は「国際女性デー」である事から、台中産のオンシジュームの花束を贈呈した。一方小池都知事は、世界花博の開催期間について尋ねるなど興味を示したほか、2020年東京オリンピックの徽章を贈った。



会談の様子

「再生エネルギー」 2025年までに20%増



台湾太陽光電産業協会の張理事長講演

台湾貿易センター主催の「台湾再生エネルギー産業セミナー2017」が3月2日、東京ビックサイト内の商談室で開催された。現在台湾では、蔡英文政権の下、今年1月に「2025年までに脱原発国」を定めた電気事業法改正案が可決された事に対し、現在台湾の電力約14%を占めている原子力発電(以下:原発)を再生エネルギーにシフトする動きがある。政府は2025年までに、全ての再生可能エネルギーによる発電比率を20%増加させ、発電量500億Kwを再生エネルギーに転換するという政策を表明。なかでも太陽光発電は全体の約半分に当たる250億Kwと最も期待が高い。

台湾太陽光電産業協会の張秉衡理事長によると、発電率20%増加を達成するため、まずは「2年計画」という太陽光発電量に関する政策が打ち出されたという。張理事長は同政策に対し、2016年7月から2018年6月の2年間で1,520Gwの太陽光発電システムを設置する目標を掲げた。公的機関や政府機関の屋上提供や農業委員会による全ての養殖場の屋上の提供、また、地方政府による一般建築の屋上をできるように規制をかける等、政府と一体となって目標達成を試みている。そしてこの2年間で法令や制度の改革を整え、送電網を増やし、3年目以降は大幅なメガソーラー事業を計画しているとの事。

なお、張理事長は日本の太陽光発電に関する技術や経験が台湾のマーケットに役立つとし、良きビジネスパートナーになると強調。さらには日本の投資家が発電システムに投資し、台湾

の再生エネルギーの発展に貢献してほしいと語った。

また、台湾電池協会の李桐進理事長は、再生エネルギーによる発電が70%を超えた場合、貯蓄も必要とし、蓄電システムの導入を促した。しかし導入するには莫大な費用がかかるため、銀行が融資できないかどうか政府に働きかけているとしている。なお、日本は蓄電関係の技術や研究の成果があり、台湾は迅速に認証できる機関が備わっているため、市場連携してビジネスを拡大していきたいと話した。

最後に、台湾スマートグリッド産業協会(以下:TSGIA)の陳彦豪副理事長は、電力需要増加に対し、現在台湾第一原子力発電所の2号機、第二原子力発電所の1号機が停止し、今後は原発廃止に向けて電力不足が起こると言及。台湾発電システムの50%を占める火力発電増加も「炭素排出低減」との政策も同時に打ち出されているため不可能とし、再生エネルギーを推進。将来は発電した電力を直接利用者に送電する事、また、電力会社に売電する際の補助的サービスの享受など、電力自動化も進んでいるとしている。

また、現在TSGIAは台北市と締結している。陳副理事長は、スマートグリッドの構築を推奨しており、スマートグリッドにより様々な電力利用者を繋げて発電、最後には電力システムと統合して台北市を1つのバーチャル発電所としたいと話した。



セミナーの様子

台中市、花卉における交流強化へ



記者会見の様子 左から福井氏、林市長、郭副代表 上から福井氏、林市長、郭副代表

台中市の林佳龍市長はこのたびの訪日、花卉に関するPRと交流を積極的に行った。3月7日には日本企業との覚書締結、8日には2018年に開催予定の「台中フローラ世界博覧会(以下:台中花博)」をPRする記者会見を行った。

オンシジューム・ユリ、さらなる展開へ

花の王国である台中市と日本の花卉会社の覚書締結に当たり、「台中市オンシジューム・ユリ対日輸出覚書取り交わし調印式」が3月7日、TKP ガーデンシティ幕張で行われた。オンシジュームにおいては、「中華オンシジューム生産発展協会」と「翠光トップライン」、ユリにおいては、「保証責任台中市屯南合作農場」と「グリーンボックス」がそれぞれ覚書に調印した。なお、林市長も立会人として覚書に署名した。現在オンシジュームとユリは台湾国内におけるマーケットシェアは半分を占めており、同締結は、今後日本でのさらなる開拓、発展を目的としている。また、台中花博や台中市の観光地の認知度向上も目指す。

式典の冒頭の挨拶で林市長は、「日本の方には台中花博に是非参加して頂き、また、その際には日本人に有名な『高美湿地』等台中の観光地にも足を運んでほしい。台中は農産品が豊かであり、歴史や文化も感じる事ができる。同締結を通して、日台友情を促進し、両国の経済貿易の架け橋になりたい」と話した。

翠光トップラインの上条昌輝社長は、「現在の花卉業界のマーケットにおいて、オンシジュームはなくてはならない品種となっている。昨年オンシジュームの日本全体での輸入数2749万本のうち、台湾からは約90%に

当たる2468万本。その3分の1の量を当社が取り扱っており、とても光栄である。同締結とともに協力、発展し、気持ちを新たにしていきたい」と話した。

また、グリーンボックスの小林邦威社長は、「台中市のユリが高品質である事は、現在日本中の花卉業界において、知名度が急速的に上がってきている。同締結において、台中市のユリを先陣切って展開していく事が喜ばしい反面、責任も伴ってくる。今後は台中市のユリ生産者との情報交換を密にして、ともに台中産のユリが大きく発展していくよう努めていきたい」と意気込みを語った。

同式には林市長のほか、台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表、中華民国対外貿易協会の黄志芳董事長、經濟部國際貿易局の徐大衛副局長も参加し、同締結を祝した。

なお、現在台湾花卉産業は台中市に集中しており、国内シェア率は70%に達している。また、昨年台湾から日本への花卉の輸出金額は2500万米ドルで、日本は台湾からの輸出国として第2位を占めた。オンシジュームは「dancing Girl」との愛称があり、昨年台湾からの輸出金額は1億5000万円ニュー台湾ドル。ユリは数百もの種類があり、香りが良く喜びを運んでくれるとしている。

台中花博で観光客100万人増に期待

世界花博の開催に伴い、林市長、台北駐日経済文化代表処の郭仲熙副代表、世界花博の総顧問の福井昌平氏が3月8日、新宿京王プラザホテルで記者会見を開いた。なお、台湾国外での記者会見は今回が初めてである。

林市長は記者会見で、テーマである「花を再発見するGNP(Green Nature People)」を日本人に伝え、世界花博を通して、2018年日本から台中への旅行客を100万人増やすとの意気込みを



保証責任台中市屯南合作農場とグリーンボックスが締結

赤間副大臣が訪台、断交後初

日本の対台湾窓口機関の日本台湾交流協会が主催する食品・観光イベント「多彩日本」の開幕式が3月25日、台北市内の文化施設で開催され、赤間二郎総務副大臣が出席した。1972年の日台断交以来、副大臣級が公務で台湾を訪問するのは初めてである。台湾メディアによると、赤間副大臣は式典後の記者団の取材で「日本にとり日中関係が最も重要な関係の一つであると同時に、日本と台湾が実務関係を維持していく事も変わらない」と話した。

赤間副大臣は開幕式で福島県など5県産食品の輸入再開を台湾側に要求した。挨拶では、福島を始めとする被災地の復興が順

調に進んでいる現状を紹介し、被災地で生産・製造された商品が万全の検査に合格、日本ですでに販売されている事に言及したほか、「日本と台湾の間には国家利益以外にも友好関係や密接なやり取りがあり、重要なパートナーである」と述べた。さらには、東日本大震災や熊本地震で台湾から多大な援助を受けたことに対し感謝の意を示す場面もあった。

赤間副大臣は同24日深夜に台湾に入り、25日夕に帰国した。その間の台湾政府高官との会談はなかったとされている。また、同式には台湾の対日交流窓口機関である「亜東関係協会」の邱義仁会長も出席し「ここまで来るのは容易ではなかった。台湾と日本はともに難しい局面にあり、一緒に乗り越えよう」とコメントした。

1972年の日台断交後、日本政府は中国への配慮から高官による訪台を自粛しており、2006年には当時の宮腰光寛農林水産副大臣が陳水扁前総統と会談する等私的な訪問があったが、公式での訪台は断交以来今回が初めて。

現在台湾は2011年の東京電力福島第1原発事故以降、福島、栃木、茨城、千葉、群馬の5県で生産・製造された食品の輸入を全面的に禁止している。

講演で米日台関係の持論を展開



講師を務めた藤井氏

日台関係研究会(浅野和生理事長)が毎月行っている定例研究会が3月11日、渋谷フォーラム会議室で開催された。今回は「トランプ新政権と米日台関係」をテーマに、国際政治学者である藤井厳喜氏が講演を務めた。藤井氏は、浅野理事長とともに「李登輝氏の会」の安全保障研究会に参加しており、これが縁で今回の講演者選定の経緯となった。

藤井氏は、今年1月20日にアメリカ大統領にトランプ大統領が就任した事により、「日本と台湾にも良い方向になってきた」とした。アメリカ共和党にはチャイナロビー派という、いわゆる「台湾は台湾」であるとの考えの政

治家が多数いるためであると強調。昨年12月2日のトランプ大統領と蔡英文総統との電話会談も、古くからいる共和党の政治家が根回していたと論じた。

また、1979年に制定された米台間の軍事同盟を主張した「台湾関係法」や、1982年の台湾への武器供与の終了期日を定めない等の「6つの保証」が米国の台湾政策の方針として台湾総統へ伝えられた事についても言及。なお、昨年には、この2つが米台関係の基礎とする事を再確認する両院一致決議案が上下両院で可決されている。

また、日台の関係について、お互いの国の関係を法的に整備する法律がない事は不幸であると主張した。法律がなければ安全保障も守れないのが現状という。一方浅野理事長は、今年の1月に「日本台湾交流協会」と名称変更された事や、3月6日に台湾の李大維外交部長が「亜東関係協会」を「台湾日本関係協会」と名称変更する方向で検

討がされている事等をあげ、「法的基礎の一手前まで来ている」と話した。そして、現在日台の関係は協定等民間レベルでの決まり事だけだが、今後は「法的裏付けを作っていくかなければならない」と主張した。このため、現在、米台の法律を模倣した、日本版「台湾関係法」を私案として「日台関係基本法」の制定も訴求していた。

また講演で、トランプ大統領の主張とは裏腹に、マスメディア側からの虚偽情報、そして共和党が「クリーン政治」と一般的に言われている現況に対しては、「倫理的な基準の高い政府作りに傾斜するだろう」と現在のアメリカの現状についても言及し、アメリカの軍事的勢力圏としても「日台の相互関係がキーとなっている」と独自の主張も論じた。

なお、同会研究所のメンバーは、「今日の定例会はいつもより人が多かった」と話しており、多くの人が今後の米日台の関係に注目している事が見受けられた。

東京タワーで開催の台湾祭 来場者多数で入場規制も



邊芳邦市長、主催者である詹德薫氏(日本中華聯合總會名誉会長)らが出席し、鏡開きを行った。

謝代表は挨拶で、近年密接な関係を築いていく日台関係を説明した上で、現在各地で行われる台湾のお祭りについて、「日本人に台湾を理解して頂く上で重要な活動である」とし、各地でお祭りを主催する在日台湾華僑らに対し感謝の意を伝えた。

「東京タワー台湾祭 2017」が3月18日から3月20日までの3日間、東京タワー(東京都港区芝公園)の屋外特設会場で開催された。会場には、担仔麵、台湾麵線、湯圓、魯肉飯、マンゴーかき氷、葱油餅、タピオカミルクティーなどの台湾夜市で人気の屋台グルメが並んだほか、ステージでは台湾に縁のあるアーティストなどのパフォーマンスも行われた。台湾グルメを求め初日より来場者が多数押し寄せ、会場は終始満員状態で台湾人気を肌で感じる催しとなっていた。2日目には入場規制が実施され、入場まで2〜3時間待ちになるなど予想を上回る来場者だった。

また、屋外で行われた同イベントは、日本人に絶大な人気を誇る台湾観光地「九份」の雰囲気が演出され、天井には赤提灯が飾られた。なお、21時頃まで開催されたため、夜には赤提灯と東京タワーのライトアップという絶妙なコラボレーションとなった。

初日の18日にはステージで開幕式が行われ、台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表のほか、日本電波塔株式会社の取締役執行役員で観光本部長の吉成二男氏、木更津市の渡

夜はライトアップで「九份」の雰囲気

で重要な活動である」とし、各地でお祭りを主催する在日台湾華僑らに対し感謝の意を伝えた。

また、吉成部長は、東京タワーで台湾祭りを開催する事について喜びのコメントをした、今後も毎年東京タワーで開催して欲しいとの希望も伝えた。なお、吉成部長は先日家族で台湾を訪れ、実際に「九份」の雰囲気を体験してきたという。吉成部長は、「東京タワーの台湾祭も、初日の今日はおかげさまで多勢の方にお越し頂き、賑わう九份の雰囲気を充分に感じられると思う」と話していた。来場者は日本人はもとより、台湾や香港、さらには観光で訪れている欧米系の外国人旅行者の姿も多く見受けられ、日台に限らず多国籍の文化交流が行われていた。



来賓と主催者による鏡開きの様子

緋桜植樹十周年、代表処で盛大に祝す



代表処公邸の緋桜

台湾緋桜植樹十周年を記念した日台文化交流会が3月10日、台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表官邸で行われた。2007年11月29日、旧皇族および旧華族関係者等で組織されている「霞会館」の北白川道久理事長より台湾緋桜3本が同処に寄贈された。そして、同処公邸に植樹されてより10年が経ち、北白川理事長、謝代表、来賓らが同会に出席し、十周年を盛大に祝した。

謝代表は、「本日のような交流会は日台文化交流の位置づけである。同会にて、茶芸や詩吟等台湾の伝統的な文化を日本人に知っていただきたい」と述べ、「日本と台湾は自然災害以外にも少子高齢化等の社会問題も相似しているため今後も互いに協力していきたい」と311大震災について言及する場面もあった。

また、北白川理事長は、「日台友好の1つとなればとの想いで緋桜を植樹して以来10年、日台の友好関係はどんどん良くなってきている。10年後20年後も本日のような記念交流会をやってほしい」と語った。

当日は同会の開催を祝して、「杵勝会」による

三味線の演奏、霞会館「絲竹会」による日本の雅楽演奏、そして謝代表、謝代表夫人、二松学舎大学張明輝名誉教授による詩吟が披露された。さらには、台湾留学生及び台南の「十八卯茶莊」による原生蘭で作った花茶を用いた茶芸(お点前)を披露するとともに、台湾語の詩吟詠と「陶声門オカリナ室内楽団」芸術監督の官鋒忠先生によるオカリナ演奏が共演され、会場内を和ませた。

なお、この花茶及び胡蝶蘭などを材料にした菓子由来に提供され、台湾文化を存分に経験する事ができた。台湾で胡蝶蘭は、人々に感動と幸せを与えているとされている。



台湾茶の作法とオカリナのコラボレーション

涂嘉義市長、火鶏肉飯実演



嘉義市出展業者らが火鶏肉飯などをPR

嘉義市グルメの魅力を紹介するイベントが3月8日、「FOODEX JAPAN2017東京国際食品店」の台湾パビリオン内で開催され、嘉義市の涂醒哲市長自らが参加し、嘉義市名物である火鶏肉飯(七面鳥ご飯)の調理が実演された。

今年1月の一ヶ月間に日本から台湾への旅客数が13万人に達したが、その内、嘉義市へ足を運んだ日本人観光客は1%にも

満たなかったという統計が出た。これを受け同イベントでは、先ずは北回帰線が通る亜熱帯気候の都市である嘉義市のグルメや未知の魅力を日本人に知ってもらう事を目的とした。涂市長は、「嘉義市には今回紹介したグルメの他にも魅力ある楽しい見所がたくさんある。また、嘉義市はあの有名な阿里山森林鉄道の出発点である。嘉義市を訪れた際には、嘉義市から阿里山に向かっの森林浴旅行を是非楽しんで欲しい」と話した。

嘉義市からは、火鶏肉飯、お菓子、碗稞(お米プリン)、小吃(シャオチー)等8業者が出展した。この嘉義市の8つの特産食品を、同イベントのナビゲーターであり、台湾旅行ガイド等、台湾に関する本を出版している片倉佳史さんにより一業者ずつ紹介された。さ

らには、涂市長が調理した火鶏肉飯や碗稞等の試食会も行われ、嘉義市のグルメは多くの日本人来場客を魅了した。

また嘉義市は、日本でも注目された日本統治時代の野球を物語にした映画「KANO」の舞台の都市であるほか、日本統治時代の建築物を喫茶店やレストラン、公共空間として利用している等、日本との縁を大事にしている地方自治体でもある。

なお、今回火鶏肉飯のお米は日本産のもので、涂市長は同展には日本産のお米を扱っている日本業者も出展しているため、今後の製品開発の上で協力できる部分がないかとの興味も示していた。



涂市長(右2)が火鶏肉飯を実演

日台スカラシップ受賞学生らが台湾研修 ～次世代の日台架け橋を目指して～



国立故宮博物院前にて、13人の受賞学生ら

日本工業新聞社(フジサンケイビジネスアイ)と産経新聞社が日本と台湾の文化交流促進を目指して行う「第14回日台文化交流青少年スカラシップ(以下:日台スカラシップ)」の受賞者による台湾研修旅行が3月21

日より26日まで5泊6日で行われた。同研修旅行に参加した受賞学生13人は、現地での交流を通じて台湾への理解と興味を深め、次世代日台架け橋の架け橋となるべく第一歩を踏み出した。

受賞学生らは同研修旅行で、陳建仁副総統や外交部国際傳播司参事回部辦事の李國榮氏、垂東関係協会副参事の張淑玲氏、教育部国際及兩岸教育司副参事の黃冠超氏らを表敬訪問。訪問の際には、台湾の現状や日台交流への思いなどの説明を受けただけでなく、具体的な質問を問いかけるなど、積極的な交流を図った。

また、台北市内では国立故宮博物院や龍山寺、中正紀念堂、孔子廟の観光、伝統芸能である布袋戲(人形劇)の体験、烏来の原住民文化体験のほか、台南では赤炭樓と国立故宮博物院南院、嘉義では八田與一記念園区と烏山頭ダムなどの観光名所も訪れ、台湾の風土や文化にも触れた。さらには地元の延平高級中学や東呉大学で若い世代同士の文化交流を行い、台湾人学生の自宅へのホームステイなども経験した。別の際には泣き出す学生もいるほど、密な交流となった。

訪問団の学生団長を務めた立教大学3年生の浅野華さんは「陳副総統とお会い出来た事は貴重な機会ですので、一番印象に残っています。また、ずっと前から知っていた烏山頭ダムに実際に行った事も嬉しかったです。当時の日本人が台湾にダムを作り、それを今でも大切にしている台湾人がいる事に感動しました。今後、日台の架け橋に

なりたと思っていますが、それは、『何かしら日台に貢献しなければならないという事だ』という意識が芽生えました。今回の研修で同じ意思を持つ仲間とも出会え、みんなに負けないように、いつかは日台のために日本の代表として活躍したいと思っています」と目標を語った。

日台スカラシップとは、台湾に関する作文、または中国語のスピーチで審査を行い、中学生、高校生、専門学校生、大学生(大学院生含む)の応募者の中から、大賞・優秀賞の受賞者を台湾研修旅行に招待するといった取り組み。日台間の相互理解や交流を深める事を目的に行われており、今年で14回目。今年には応募者515人の中から1人が大賞、1人が審査委員長特別賞、11人が優秀賞を受賞し、13人全員が研修旅行に参加した。

出発日の21日午前には、東京都千代田区のサンケイプラザで表彰式が行われ、台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表らも出席。謝代表は、「受賞者らが将来、台湾と日本の友好交流の懸け橋となり、台湾の若者と共に国際社会に貢献できるように期待している」と話し受賞学生らを激励した。



延平高級中学にて日台学生同士の交流

簡単で効率のよい経理を支援します

大塚会計事務所

起業された方や、J-SaaS(サーズ)やパソコンで会計を始めるという方へ、毎日の経理処理や経理作業を簡単に効率よく進められるやり方をご支援いたします。

お気軽にご相談下さい

〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-12-1 佐伯池袋ビル306

TEL: 03-3985-5730 FAX: 03-3985-5731

★山手線新大久保駅2分 ★総武線大久保駅1分

嘉南旅行社

東京都知事登録旅行業第3-4417号(社) 全国旅行業協会正会員

台北 ¥27,000(税別)	北京 ¥30,000(税別)	上海 ¥35,000(税別)
大連 ¥32,000(税別)	韓国 ¥27,000(税別)	越南 ¥32,000(税別)
香港 ¥30,000(税別)	曼谷 ¥32,000(税別)	新加坡 ¥32,000(税別)

●代辦中國、東南亞諸國簽證 ●世界各地便宜機票、酒店及團體旅遊 ●來日團體的酒店、派車、導遊 ●電腦訂位、迅速、確實

精通國、臺、日語服務親切

※銀行匯款口座 三菱東京UFJ銀行練馬駅前支店(普) 3678888(名義) 嘉南観光(株)

營業時間: 週一~五 9:30~18:30 週六 9:30~13:00

TEL: 03-3366-3988 FAX: 03-3366-2989

地址: 〒169-0073新宿区百人町2-20-1 第二岡田屋ビル401

大鑫産業株式会社

広めよう未来につながるリサイクル社会

大鑫産業株式会社は、不用品や廃棄物のリサイクルを専門とする会社です。

非鉄スクラップ	自動車部品	OA機器	基板	CPU貴金属
---------	-------	------	----	--------

◎電子部品、パソコン関係などの在庫処分にお困りの方は、DAIKINにご相談ください。◎生基板、トナーカートリッジを買取、リサイクルいたします。

DAIKIN

TEL. 0297-30-3308(代表) FAX. 0297-30-3309

本社: 〒306-0515茨城県坂東市沓掛6464 http://daikin34.com/index.html

Information エンタメ/イベント/日台交流

国立清華大学×上越教育大学 台日絵画合同展



楊絮婷《新しい辞書計画》ミクストメディア
台湾国立清華大学と上越教育大学の台日絵画合同展が4月1日から15日まで佐藤美術館で開催される。

台湾人バンド×世界のごちそう コラボレーション



世界195ヶ国の珍しいご馳走を作る、世界のごちそう博物館・本山尚義シェフがレシビベの制作が叶い4月9日、制作を祝したパーティーを大阪市D世界の料理を楽しみたいわん!イベント開催

台湾ボーイズバンド「noovy」が1000枚CDを完売!日本ワンマンライブ決定!!

2017年1月から、本格的に日本でも活動を始めた台湾出身・平均年齢19歳の4人組バンド「NOOBY(ヌービー)」。



読者プレゼント企画
台湾新聞をご覧の皆様の中から抽選で3名様に「NOOBY 初ワンマンライブ」をプレゼント致します!

関西台商会に兪秀霞会長が就任

日本関西台商協会(以下:関西台商会)創立20周年を記念したパーティーが昨年12月23日に奈良のパークホテルで行われ、第11期会長に兪秀霞会長が新しく就任した。



日本関西台商会の兪秀霞会長
様々な取り組みを行ってきた。千葉友会率団訪問、同会青年部との交流及び春節祭での台湾グルメの販売・PR、大阪僑務委員会の呉会長との座談会等、他団体との交流も大事に取り組み、お互いに有意義な活動に繋がって行きたいとしている。

油絵個展開催の画家『李素貞』さんインタビュー

作品を通して人権を主張する台湾の画家「李素貞」さんの個展「1人の母親が描いた台湾」が4月5日より東京芸術劇場で開催される。



油絵画家の李さん
「台湾の多元文化」、「未来への展望」と4つの構成に分け、全71作品の展示が行われる。

Advertisement for Shintomi International Language School and Chiba-Taiwan Business Association. Includes text: 来日本, 找新富, 用心呵護, 用愛守候. 日本留學, 日本短期留學, 日臺打工度假簽證, 體驗日本文化.

Advertisement for insurance services. Text: 法人契約で全額損金! 節税対策、退職金準備に最適! 万一の保障に + 介護障害特約 保険が登場しました. Includes a table of insurance benefits and contact information for Link Support Group.



Digest News / March 2017

— 1ヶ月の出来事をダイジェストで振り返ります

Mar.2 桃園 MRT 正式開業!

台北駅から桃園国際空港をつなぐ空港線桃園 MRT が正式に開業した。台北-桃園空港第2ターミナル間を最短37分で結び、桃園空港へのアクセスが便利になったほか、高铁桃園駅では台湾高速鉄道との相互乗り換えが可能になるなど利便性も向上した。開業初日は台北駅で開業式も行われ、陳建仁副総統や台北市の柯文哲市長、鄭文燦桃園市長、李四川新北市副市長らが出席して祝した。桃園 MRT によると、

2006年の着工以来、開業時期については走行速度が基準を満たさない等の問題が発生し6回の延期を経ての開業。2月2日に乗車無料のプレ開業を行い140万人が試乗。その後、今回晴れて正式開業となった。初日には開業記念として台湾で人気のスナック菓子「乖乖」が当日限定で配布され、桃園 MRT も「乖乖」同様順調に運転されるようにと願いも込められていた。

Mar.3 タイガーエア高雄〜沖縄路線就航

チャイナエアラインの子会社である格安航空会社タイガーエアが高雄〜沖縄線の運航を開始した。タイガーエアが高雄を拠点とした日本路線は、東京、大阪に次いで3路線目となる。運航日は沖縄発、高雄発ともに水・土曜の週2便。機材はエコノミークラス180席を配置した、エアバス A320型機を使用している。就航初日には高雄国際空港ターミナル内で就航式が行われ、高

雄市政府観光局の曾安委局長も出席した。曾局長は、「今回の就航で日台間の観光が頻繁に行われる事を願う。特に高雄の冬は気候が快適であり、日本客が避寒するにはとても良い」とコメントした。2016年には日本人旅行者189万人が台湾へ旅行し、その中で約35万人が高雄に宿泊しているとの統計が出ており、現在高雄は第二の旅行都市となっている。

Mar.3 「2017台湾国際ラン展」開幕

世界30カ国以上のランが集まる「2017台湾国際ラン展」が台南市内で開幕した。開幕式に出席した蔡英文総統は、台湾をランの品種開発と種苗供給の国際的な中心地に成長させられればと国際市場での向上意欲を示したほか、海外でランの話題となる事は台湾の誇りであると述べた。台南市の頼清徳市長も、ランを通して国内外へ台湾の生産技術や創造産業を発信でき

ると強調。蔡総統によると、昨年のランの産出額は62億円で、このうち輸出額は55億7000万元と9割近くを占め、品種こそ競争力とし、台南を拠点に品種の流行をけん引する必要があると指摘。また、ASEAN や中南米諸国などの協力や交流を進め、新興市場を積極的に開拓していくべきだと述べた(元=ニュー台湾ドル)。

Mar.9 WBC1次ラウンド敗退決定

ワールド・ベースボール・クラシック(以下:WBC)1次ラウンド・プールAの台湾対韓国戦がソウルで行われ、韓国が11対8で制した。3連敗となった台湾は1次敗退、次回予選ラウンド行きが決定した。行政院の林全院長はこの事に言及し、「ファンを失望させてしまったが、今何回か欠けていたのか等を追求し、今後選

手一人一人が力を発揮できるようどうすべきか、政府が責任を持って全面的に検討していく」とコメント。なお、台湾に続き韓国、中国と日本以外のアジア勢が1次敗退となった。23日にはWBC決勝戦が行われ、アメリカがプエルトリコを制し悲願の初優勝となった。

Mar.11 蔡総統政権下初となる反原発デモ実施

福島第1原発事故から6年に合わせ台北市、高雄市、台中市で反原発デモが行われ、延べ約5000人が集まった。蔡英文総統は今年1月、2025年までに「脱原発」実現のため電気事業法を改正した。しかしながら実質的な動きは停滞状態であるとし、デモの参加者は廃止への具体的なスケジュールを記載した法律制定等要求し、再生エネルギーへの切り替えを加速させるよう政府に訴えた。台北市では、デモ隊が通る道路の中央に「NO NUKES」(原発ゼロ)の巨大な文字オブジェが総統府と向かい合うよう

に設置され、反原発との強い想いを訴えた。



NO NUKES! 総統府前に設置されたオブジェ(写真提供:中央社)

Mar.13 全英オープンで台湾人初優勝

バトミントンの「ヨネックス全英オープン」大会の女子シングルス決勝戦がイギリスバーミンガムで開催され、世界ランキング1位の戴資穎選手が優勝した。決勝相手はタイのラチャノック・インタノン選手。51分間に及ぶ激戦の末、ストレート勝ちとなった。台湾の選手が全英オープンで優勝するのは初めて。戴選手は、今回も含め

過去にインタノン選手と13回対戦し、成績は6勝7敗となっている。なお、戴選手は昨年11月の香港オープンと同12月のスーパーシリーズファイナルズでも優勝を果たしており、世界バドミントン連盟が実施する年間トナメントを3大会連続で制覇している。

Mar.13 蔡総統、鉄道車両メーカー視察

蔡英文総統は台湾北部・新竹県にある鉄道車両メーカーの「台湾車両公司」を視察した。リーディングカンパニーとしての役目を果たし、周辺産業を進展させ、雇用機会を生み出し、台湾経済により多くの活力を注入してくれる事への期待を目的とした。蔡総統は同社について、「台湾で唯一の、整合性を有し、発展の潜在力を持つ鉄道車両製造業者だ」と評価したほか、「産業のリーディングカンパニーとしての責任を持ち、周辺産業の発展をけん引してくれば、政府にとっても大きな励みになる」と述べた。なお、現在政府が推進しているインフラ建設の投資拡大計画「前瞻基礎建設

計画」でも、鉄道・運輸が重要な項目に含まれている。



蔡総統、台湾車両公司視察(写真提供:中央社)

Mar.15 台湾への渡航者、過去4年で最高

行政院は交通部観光局の統計を基にした、政府が掲げる「新南向政策」で、対象国から台湾への渡航者が、今年1月は約6万8000人に達したと発表した。これは昨年同月比42.8%の増加。1月の成長率としては、過去4年間で最高となった。最も多かったのはマレーシア、シンガポール、タイ、ベトナム、フィリピンの5カ国。こ

のうちタイは今年1月、台湾への渡航者が昨年同月比170%増、初めて1万人を突破した。政府は今後3年間で、インドネシア、インド、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなど、観光客の潜在成長率が高い国に対して、査証免除の措置を実施していく方針。「新南向政策」とは東南アジア等18ヶ国との関係を強化する政策。

Mar.18 MAYDAY4日間で20万人動員!

台湾人気バンドMAYDAYが高雄国家体育館で計20万人を動員するコンサートを開催した。期間は21日までの4日間。興行収入は4億元ニュー台湾ドルに上った。台湾メディアによると、高雄市のファンや海外のファンも多く、宿泊先確保に苦労だったという。また、会場まで南下するため使用する台湾高速鉄道の休日輸送総

数の平均20万人に対し、4日間平均で一日当たり27万人の乗車数だった。なお、同29日には結成20周年を記念した無料ライブを台北市の「大安森林公園」でも開催し、当日も大勢のファンが駆けつけていた。また、3年半ぶりとなる大規模コンサート「人生無限公司」は、高雄を皮切りに世界ツアー100回公演を予定している。

Mar.19 永遠の女神「李麗華」死去

台湾、香港を拠点に女優や歌手として活躍した李麗華が香港で亡くなった。享年93歳。遺言状には一切を公開せず、親戚のみの火葬式を希望と記載があったため、死因は一般公開されていない。李麗華は主演映画で多くの金馬奨(映画賞)を受賞し、さらに15年には「金馬奨終身成就奨」、16

年には「香港電影金像奨」という名の永久の賞を受賞し、世間からは「永遠の女神」とも呼ばれていた。京劇役者の両親を持つ李麗華は1940年16歳で芸能界に入り、同年には映画「三笑」で女優デビュー。それ以後80年代までに140本以上の映画に出演した。

Mar.22 食薬署、調査結果発表

衛生福利部食品藥物管理署(以下:食薬署)が、昨年レストラン及び自営業の店舗等を対象に行った衛生環境に関する調査結果を発表され、2403対象店の内、約2割が不合格だったとした。ゴミ箱の蓋の開けっ放し、食材が地べたに放置されている事、食材が入っている容器の蓋がされてない等の不衛生が原因とみられる。食薬署中区管理センターの林炎英科長によると、不合格

だった店舗に対し、「食品安全衛生管理法」を基に即日付の改正を求めた再調査が行われ、99%が合格したとした。なお、同署は昨年3月にランダムで行った自営業668店舗への検査で、2店舗の食品の中に大腸菌群の基準値が越えていた事にも言及し、3万元ニュー台湾ドルの罰金を払ったと発表した。

Mar.23 台東県政府、野球場建設計画中止に

台東県政府は、県内を流れる知本溪の川岸に野球場を建設する計画の中止を発表した。建設場所が台湾原住民プム族が主張する「伝統領域」の範囲内に含まれ、地元先住民から反対の声が上がったのが原因。プム族は総統府敷地内に寝泊まりしながら28日間も抗議をし続け、その結果

政府は中止を決定。政府は、原住民の基本的権利の保障などを定めた「原住民族基本法」の遵守を改めて宣言した上で、「伝統領域が法的手続きによって正式に決定されていない段階で、公共施設の建設計画を進められないのは県民の福利にそぐわず、非常に残念である」とコメントした。

Mar.23 日本人制作の台湾鉄道路線図が話題に

日本の鉄道ファンが作った台湾鉄道の路線図が台湾多数の新聞に取り上げられるなど台湾で波紋を広げている。この路線図は「ひまわりデザイン研究所」によって制作され、自分が使いたいからという理由で台湾の全線の路線図を作ったところ台湾のネットが話題となった。「日本人が作った路線図のほうが明確で分かりやすい」、「まるで電気回路のようだ」との声が多数上

がっている。路線図には台湾全土の鉄道路線が描かれており、台北や高雄のMRT、台湾高速鉄道はもちろんの事、阿里山といったローカル線まで完全に盛り込まれている。なお、同研究所が現在発表している海外の鉄道路線図は台湾のみであるが、今後各国、地域の路線図が増えていく事に期待がもたれている。

Mar.24 同性婚を巡った裁判、今年5月に見解

同性同士の結婚を認めていない民法が、法の下での平等などを保障した憲法に違反しているかどうかを判断する法廷が開かれた。憲法判断を担当する大法官会議の判断は、民法の改正案の議会審議に影響を与える可能性があるとして、今年5月までに見通しが示される判断となった。同法廷では、14人の大法官が、憲法判断を求めた男性や法律の専門家などから聴聞し、今回の結果となった。男性は「同性愛は正しい事。正しい人が正しい事をできるようにし

て欲しい」と同性婚を認めていない現在の法律は憲法違反であると主張。現在台湾では全体の約4.5%が同性愛者である。なお、同法廷の様子はインターネットで生中継され、多くの台湾人の注目を浴びた。一方、法廷が開かれた建物の前では、反対派の人が集まり、「社会の共通認識がないのに、強引に法律を変えるのはおかしい」と訴えた。現在世界では23カ国が同性婚を認めている。

Mar.24 台北市長がコスプレでイベント登場

陽明山で毎年恒例の「竹子湖カラーフェスティバル」が開幕。台北市柯文哲市長は、今年のテーマがアニメ・漫画である事から、人気アニメ「ナルト」のコスプレでイベントに登場した。柯市長は「台北市と竹子湖の努力の下、農園を次第にレジャー農園施設へと変換する事に成功し、お花のカラー」の大部分の生産量を占めている竹子湖は年3月〜5月の台北観光にとって外せない場所となった」とコメントし、抽選で選ばれた一般市民や地元の小中学生とともにカラー摘みを楽しんだ。会期は4月23日までとなっており、会場となる11の農園には、今年のテーマであるアニメや漫画にちなんだ撮影スポットを設置。ガイドツ

アーや農園体験、楽器演奏などのイベントも開催される。なお、カラーの見頃は5月末まで続く。



柯市長、ナルトのコスプレでイベントに登場(写真提供:中央社)

主演・張震が来日!

「牯嶺街少年殺人事件」舞台挨拶で想いを語る



左から余為彦プロデューサー、張震、妻夫木聡

台湾映画「牯嶺街少年殺人事件」が3月11日より25年ぶりに日本で封切りとなった事を祝し3月14日、上映会場の角川シネマ有楽町にて主演の張震と余為彦プロデューサーが上映前に舞台挨拶した。会場には張震の役者仲間である妻夫木聡がスペシャルゲストとして登場し、両名に花束をプレゼントするサプライズも。舞台挨拶があった同日のチケットは、発売開始より数分で完売するほどの大人気で、当日は多くのファンが駆けつけ満席となった。

同作品は1991年に日本で初公開されて以来、これまでDVD化されず幻の傑作と

呼ばれていた名作。同作の楊徳昌監督の没後10年の節目の今年、3時間56分のデジタルリマスター版として25年ぶりの再上映が実現したものだ。楊監督と様々な映画でタッグを組んでいる余プロデューサーは、楊監督について「この作品のために台湾や香港とともに撮影して過ごした時間は本当に貴重な映画で、亡くなって10年たった今でも、僕らをひっぱって行ってほしい」と述べた。また張は、「楊監督もこの作品自体も僕にとっては特殊な存在。この作品がなければ、この仕事に就く事はなかっただろう」と想いを語った。

同作品は、張の実の家族も登場する。主演の張の役は「小四」。その「小四の父親」役に張の実父、さらに「小四の兄」役に張の実の兄が出演。さらに実母も数秒だけ出演しているという。この配役に関し張は、「当時撮影していた時は、まだ演技というものがわからず、混乱する部分もあったが、今となっては一つの作品に自分の家族の姿を

表せるというのは、とても得難い事」とコメントした。

一方、余プロデューサーは同作品について、作品の軸となるのは「恋愛のもつれによる殺人事件」としながらも、1949年に「小四」の父母のように台湾に逃げてきた「外省人の困難と不安の描写」ではないかと、持論を展開し、「楊監督はその台湾当時の時代の雰囲気を出しきったのでは」と話した。

なお、妻夫木は「張さんは本当に良い人なんだよ!」とコメントしたほか、「光と闇が特徴的な映画で、脳裏に焼き付く独特な力を持っている。最近の映画は主観的にとらえている映画が多いが、この作品のようにこんなに色々な顔を持っている映画は珍しい」と同作品についても熱弁した。

また張から、先日、映画「怒り」で第40回日本アカデミー賞最優秀助演男優賞を獲得した妻夫木を祝して、勝負パンツの柄にしている「ジョーズ」をプリントした水着をプレゼントすると、会場が一気に湧く場面もあった。

同作品は3月11日より角川シネマ有楽町、新宿武蔵野館(3/18〜)ほか順次、全国ロードショー中だ。

『Zodiac』日本再上陸、演出効果で観客魅了



Zodiac 舞台と映像の演出効果

台湾を拠点に活動している劇団「莎士比亞の妹妹の劇団」が来日し、3月2日から5日まで、上野ストアハウスで「Zodiac」を上演した。日本での公演は昨年5月の茨城県「百景社アトリエ」での上演より2回目。「Zodiac」とは、1960年代のアメリカ連続殺人鬼の自称で、同公演はその殺人鬼から着想を得た二人芝居。殺人鬼はFAさん、そして彼の周りの様々な人間を頼み君さんが演じた。

舞台と2つのスクリーンに映し出された映像の組み合わせによる演出が特徴的で、さらにバックスクリーンには字幕も映し出され、言葉を発さず表情や体全体の動きで表現する場面も多く、言葉がわからずとも

視覚でも楽しめる2人の体を使った圧倒的パフォーマンスには、「Zodiac」の世界観に引き込まれる。また、同公演のため新たに収録した部分や内容が少し変更した所も多々あり、前回来日の公演とは趣を異にした演劇が味わえる構成だった。

出演者のFAさんは「台湾の劇場は今回の上野ストアハウスのように住宅地には建てないので、このような場所で上演する事ができるのは面白い」とコメント。頼み君さんは「前回来日の時とは内容が少し異なっているため、新しい作品の芝居を演じた感じがする。哲学をテーマとした要素がたくさん入っているの、言葉で聞くより生で演技を見た方がわかりやすい」と話した。

「Zodiac」は2001年初演で、舞台と映像をミックスさせた演出が評価され、第一回台新芸術賞にて十大パフォーマンス芸術賞を受賞している。なお、「莎士比亞の妹妹の劇団」のプロデューサーは陳汗青さんが務めており、日台の演劇の素晴らしさを両国互いに知ってもらいたいという想いから、4年ほど前より日台間での交流を開始。昨年は三重県津市美里町を拠点の劇団「第七劇場」と締結し、3年間の日台国際共同プロジェクトが始動、さらに今年11月には三重県文化会館での公演も決まっている。



視線の交錯を通して日台文化交流

有する台湾人アーティストの作品、台湾のアートコレクターが保有する日本人アーティストの作品を展示する内容。台湾人アーティスト5人、日本人アーティスト11人の作品が

「日台の互いの理解が深まり、1つの交流の輪をひろげていけたらとの想いで同展を企画した。アートがより生活の中に生きていけるようにサポートしていきたい」とコメントした。さらに、同展のキュレーターを務めた東京都現代美術館の長谷川裕子参事は、「以前アートフェア等で台湾人コレクターの日本アートに対する深い理解や情熱を感じていた事があった。彼らが日本の作家をどうやって見ているか、そしてそのまなざしによって日本の作家がどのように私たちに新しく映っていくのか、視線交錯による新しい発見や喜びができたら良い」とタイトルに込めた想いを語ったほか、「文化交流に加えて、コレクターや倉庫に秘められていた作品が表に出てきて、これが様々な形で重要な役割をアートの世界で演じているという事を魅せていく」と同企画の主旨についても話した。

なお、中野社長は25年間台湾での居住経験があり、また台湾文化庁の名誉顧問も務めている等、日台の文化交流に尽力を注

いでいる。同会終了後は同会場でもあるT-ART GALLERYでレセプションパーティーも開催され、さらなる文化交流と今後の芸術分野の発展を祝った。

同展は寺田倉庫で3月16日から4月2日まで、台湾文化センターは3月16日から同26日まで開催された。

覚書締結で人材育成を強化

また3月15日、寺田倉庫、横浜美術大学、台湾の正修科技大学の3社間交流に関する覚書締結の調印式も行われた。この調印式は、2016年12月20日に締結された、横浜美術大学と正修科技大学が修復保存の海外研修を行うインターンシッププログラム等の姉妹校締結及び大学間交流協定に覚書した両大学の交流に対し、寺田倉庫が支援

するために実施したもの。中野社長は、美術品の修理修復は産業化しなければならないと主張し、調印後は、新しい芸術を作り出す人材の育成、及び個人や家族等の宝物の修復や保存技術者を育成していく等、より一層相互の連携を図る事を目的とするとした。

正修科技大学の龔瑞璋学長は、「アジアの文化財保存学の領域に活力を与え、歴史の1ページになるだろう」とコメントした。



3社間交流協定締結式に龔学長、中野社長、岡本学長

東京都品川区にある寺田倉庫と台湾文化センター合同主催による日台文化交流展覧会「マイ・コレクション展—感性の寄港地—」が3月16日より開催された。これに先立つ3月15日、寺田倉庫所有のT-Lotusでプレス発表会が行われた。「マイ・コレクション展」は、寺田倉庫の美術品倉庫利用者の絵画コレクションから一部を展示する展覧会で、今回は「感性の寄港地」をテーマに、日本のアートコレクターが保

作品の前で記念撮影する謝代表(右)と中野社長から小さなオブジェクトまで計23点は、5人の台湾人コレクターと3人の日本人コレクターによって収集されたもの。

主催側の台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表は、「今回集まった作品は非常に高い評価を受けている。倉庫と関わり品物を保管する所と思えば、同展のような文化交流など倉庫の枠組みを超えた取り組みを実施しているのは大変喜ばしい事」と述べた。また寺田倉庫代表取締役の中野善壽社長は

劉若英来日!「後來」等42曲熱唱

中華圏で大人気の女優歌手の劉若英が3月23日、東京都江東区のZepp DiverCity TOKYOでライブ「Renext WORLD TOUR」を開催した。劉若英が日本でライブを行うのはこれが初となる。当日は国籍を超えた多くのファンが駆けつけた。

劉若英の大ヒット曲となった日本歌手「kioro」の中国語カバー曲「很愛很愛你」や「後來」、「アンジェラ・アキ」の中国語カバー曲「繼續—給十五歲的自己」のほか、アンコールを含めおよそ3時間に及ぶステージで、全42曲を熱唱した。なかにはアジアの人気バンドMAYDAYの「乾杯」や他の台湾歌手のヒット曲を歌うなど、会場を沸かせる場面もあった。

曲の合間には「もう桜咲いた?誰が私と一緒に花見してくれるの?」等ファンに問いかけながらの交流や、「本当にすみません」との日本語も披露。また、特殊な演出効果等

の工夫も施され、衣装チェンジも多数行なわれるなど、歌声以外の部分でもファンを魅了した。全ての曲をファンも一緒になって熱唱し、全員が携帯のカメラの光で会場を照らす場面もあり、終始会場は一体化していた。

劉若英は「最初の海外旅行は母に連れられた東京。デビュー以来22年、ようやく東京に来る事ができた。今日はたくさんの初めてがあつて嬉しい。これからは努力し常に好奇心を持ちながら歌を歌っていききたい」と日本でのライブが叶った事に対する想いを語った。

劉若英は1994年に映画「少女小魚」で女優としてデビューし、台湾アカデミーの最優秀主演女優賞を受賞している実力派俳優。アメリカで声楽やピアノを学んだ経験もあり、元々歌手志望だった劉若英は歌手としてもデビュー。現在では台湾だけではなく中国大陸でも大人気だという。同ライブにも中国大陸

のファンが多く見られ、劉若英のニックネームでもある「奶茶」とのフェイスシールを貼っているファンも目立った。中国大陸から来たファンは、こんなに近くで見られる機会がほとんどないため、興奮が冷めない様子だった。

なお、4月にはオーストラリアやアメリカ等世界4ヵ国でのライブを予定している。



劉若英42曲熱唱

沖銀、台湾カード対応のATMを設置

沖縄銀行(玉城義昭頭取、以下:沖銀)は3月6日、台湾の金融機関が発行するクレジットカードやキャッシュカードで即時に日本円が引き出せる「海外発行カード対応 ATM(現金自動預払機)」を沖縄県内の沖縄銀行本店営業部とイオン北谷店の2カ所に設置した。

同ATMは、台湾で発行されたクレジットカードやキャッシュカードで「日本円」を即時に引き出す事ができるもの。台湾で発行されたキャッシュカードで即時日本円引き出しができる機能は、沖縄初の取組みだ。使用出来る台湾のカードは臺灣銀行、彰化銀行、華南銀行、新光銀行、玉山銀行、高雄銀行など18銀行。対象の取引は引き出しに限られる。

同サービスは沖縄県のインバウンド対策への支援として実施した。先に海外発行カード対応ATMを行っていた北海道銀行(頭

取笹原晶博)との提携により、沖縄地域初の設置となった。沖銀によると、近年、台湾からの観光客は航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数増加に伴い上昇の一途をたどっており、

昨年には60万人を超える勢いになっているという。同サービスにより台湾からの観光客による消費拡大を図り、沖縄県の経済発展に繋がりたい考えだ。



「海外発行カード対応 ATM」を沖縄県内2カ所に設置

台湾国際不動産理財投資展示会 Taiwan International Estate Expo

ブース募集中

「88%の出店業者が予想の出展目標達成 目標達成」

台北不動産博覧会は数十億のビジネスチャンスを作る!



- 出展利益 消費者に不動産購入の自信をつけます。
- 出展利益 業者の知名度アップ。
- 出展利益 個別企業の市場価値を目立たせます。
- 出展利益 国際バヤーに日本の投資を注目させます。

台湾国際不動産理財投資展示会 Taiwan International Estate Expo

2017年6月9日~6月12日 金曜日~月曜日 10:00~18:00 台北世貿中心展覽一館 (台北市信義區信義路五段5號)

詳細請見↓



台湾人百人百色 日本時代からの台湾人警察官～陳加発さん

文：林雅行(映画監督)

日本統治時代。台湾統治の要は、警察だった。大正11(1922)年に蘇澳の町から離れた田舎で生まれた陳加発さんは、16歳の時に警手(警察官の補助要員)に採用された。警察官は圧倒的な日本人優位の社会で内勤は日本人が多く、外勤は日本人が管理職で台湾人も採用されていた。

蘇澳警察署の内勤だった陳さんは会計係の仕事をしてた。太平洋戦争で日本の敗色が濃くなって昭和19年3月に巡査になった。

陳さんの勤務場所は郡役所の中の警察課で、役所の前に宿舍が4軒あり その一つに住んでいた。終戦の時、住民が警察署に押し付けてきた。この時の光景を陳さんは覚えている。

日本人警察官は台湾人には厳しかった。その反動で警察署を襲撃しようというのだ。しかし日本人の署長が「我が調べるから」前に出て来てこういった。

「彼らは私の命令に従っただけだ。部下には責任はない。責任は全て私が取る。」

その気迫というか男気に住民は圧倒されたという。陳さんは2階から見ていた。すると台湾人の警察官が「我が調べるから」とい、それ以上の騒ぎにはならなかった。

日本人が引き揚げた後、陳さんは「接収管理委員」になった。日本時代の日本の財産を管理する役目を負ったのである。

大陸から中国人がやって来て陳さんの上司になる。ある時、その上司は陳さんにいった。

「君の管理をしているお金を預かる。上司の命令だから逆らうわけにはいかない。突差に「一筆書いて判子をください。」

日本時代に金銭の授受には必ず受け取り

という習慣が身につけていたからだ。上司は強い口調で強要したが陳さんは受け取りを書かないと渡せないと拒んだ。

上司は渋々一筆書いた。金を受け取った後、上司は「どこかへ行ってしまった」(陳さん)。

後日、金がなくなっていることを陳さんが追求されることになる。陳さんが横領したと疑いがかけられたのだ。

陳さんは元上司の署名と捺印した受け取りを見せた。その結果、疑いは晴れた。

「もし受け取りがなかったら、僕は牢屋だった」。陳さんはゆっくりとした日本語を話す。95歳になった今も面影に童顔が残る。だから(?)、日本人の警察官仲間可愛がられたらしい。

蘇澳には炭酸泉があった。日本統治時代以前から炭酸の湧く泉があり、魚が死んで浮いていたことから地元では「毒水」と怖がられていた。

日本軍と共に軍の仕事を請け負っていた民間人の竹中景が炭酸泉であることを発見し、炭酸の湧く冷泉浴場を作り、飲料水としてラムネ、サイダーを製品化した。炭酸水は体を暖め傷を癒した。炭酸水に砂糖を入れて飲用にしたらラムネは大人気になった。陳さんの上司の課長は大好物だった。だから10代の頃、陳さんはよく1リットルの炭酸水を課長に届けて喜ばれたという。



陳さん 写真

「でも今はない」。今冷泉は浴場として賑やかになっているが、ラムネ、サイダーの工場はなくなっている。

竹中景の孫娘の竹中子さんを主人公の1人として私はドキュメンタリー映画を製作している。竹中さんと一緒に陳さんを訪ねた。その後、日本に帰って私は陳さんに手紙を書き再訪した時、ご自宅に伺いたいとお願ひした。陳さんから丁寧な返事が来た。

冷泉のすぐ傍にあるお宅を訪ねてインタビューした。家族が見守る中で応じてくれた。帰り際に「信子は娘みたいだ」とポツリと言う。竹中子さんのことだ。竹中さんは85歳。年齢的にいうと10歳年下の妹なのだが、陳さんにとっては肉親同様なのだろう。この一言は、想いが一杯こめられているのだろう。

「お土産……」といって台湾名産のからすみを手渡された。これにも陳さんの気持ちが伝わっているのに違いない。

(文：You Li Xiang)

More!More!台湾♡

魯肉飯より鶏肉飯!!!

最近、日本での台湾料理人気ますます盛り上がりを見せています。いたるところで台湾料理のお店がオープンしたり、台湾関連のお祭りが行われて台湾グルメを手軽に楽しめるようになりました。そういったお祭りなどの会場でも良く見受けられるのが定番台湾グルメの魯肉飯(ルーローファン)＝煮込み豚肉かけ飯です。豚バラ肉などを細切りにして、甘辛い煮汁で煮込み、煮汁ごとご飯の上に掛けただけで、今や日本人にも大人気です。

たしかに魯肉飯はおいしいですが、少し食べ飽きてしまったという人にオススメしたいのが鶏肉飯です。これは、台湾中南部の嘉義(かぎ)を発祥とする井料理です。細く裂いた鶏の胸肉やササミをご飯にのせ、鶏油と甘口のタレをかけたシンプルなもの。本場の嘉義では七面鳥(火鶏)を使う事が多く、火

鶏肉飯とも言われます。台北では鶏肉を使うのが一般的のようです。

と、鶏肉飯についてご紹介しましたが、お恥ずかしながら実は私も3月末に台湾を訪れた時に初めて鶏肉飯を食べたという“鶏肉飯初心者”です。鶏肉飯の存在はずっと知っていましたが、なかなか食べる機会に恵まれず……。3月末の台湾出張で夜の空き時間に台湾人の友人に連れられて寧夏夜市に寄った際に友人が鶏肉飯を注文。一口味見させてもらったのですが、これがまた感動レベルの美味しさで、一口のはずが自分でも追加で注文してしまいました。見た目は本当にシンプルで、ご飯に鶏肉がのっているだけに、なぜあんなに美味しいのだろう……といった感じで、最近はずっと鶏肉飯をオススメしています。本当にこれは癖もなく食べやすいので、騙されたと思って食べてみて

くださいね!是非、私も機会を見つけて本場嘉義に食べに行ってみたいと思います!



鶏肉飯

たいわん 捲る臺灣

「蔡英文自伝」～台湾初の女性総統が歩んだ道～

台湾総統である著者蔡英文は自身を「私の最大の楽しみは家にもって本を読むこともしくはテレビを見ること」とシンプルであると表現する。著者は自らのプライベートを公の場に語ることを好まない事の多くは広く知られているが、本書は学者から政治家へそして台湾総統に就任するまでの自身の道程のなかで、家族と家庭環境の影響を記しているなど、希少性ある日本語文献である。「私の人生経験は国家の重要なターニング・ポイントとともにありました」と明確に表現し、寡黙で自身の哲学を振り返っているところが特徴である。そのポイントを三つに分け「これは、私の人生の物語です」と記している。原住民の祖母を持ち、客家の父親として河洛人の母の元で育った著者は、第一章で幼少の頃を描く。やがて学者の道を歩むため米国へ留学、その後英国へも進学する。なかでも1.5個の博士号を取得した第二章の記述は面白い。欧米教育の影響は以後、著者のこれから歩む

政治家の資質に影響を与える事となった。学者、官僚、閣僚、そして民進党主席と歩み進める「政治家」の物語は、読み進めるうちに「親近感」を感じる。米国で受けた「民主主義の洗礼は政治家としての信念」が形成され、英国でのグローバリゼーションの問題についての研究では「交渉人として政治システム全体像」に生かされている、と結ぶ。第三章第四章は台湾政治を内幕から垣間見る事ができ、二十年に及ぶ政治活動を「最終的には人民の願う場所へたどり着くのだ」と述懐している。台湾の総統は人民による直接選挙で選ばれる。著者を台湾初の女性総統に後押ししたのは民意であり民意でもある。蔡英文は言う、台湾の政治が「激情的」なものから「情熱を持った理性」へと変わる事を期待していると。本書は著者の半生であり、台湾民衆一人一人の民主主義の強い意志が刻み込まれ、民衆とともに歩もうとする政治を描写している紛れもない自伝である。



編者：蔡英文
刊：白水社
判型：四六判上製
頁：270頁
定価：本体価格2000円(税別)

読者プレゼント企画

台湾新聞をご覧の皆様の中から抽選で2名様に本書「蔡英文自伝」をプレゼント致します!応募方法は、ハガキに応募券の切り抜きを貼り付け、お名前、ご住所、お電話番号及び台湾新聞へのご意見感想を明記のうえ、台湾新聞編集部までお送りください。当選のご連絡は発送をもって代えさせていただきます(4月中旬に発送予定)。締切り：4月15日(消印有効)。台湾新聞社編集部〒171-0021 東京都豊島区西池袋4-19-4 / tel:03-5917-0045



てくてく台湾旅⑬

松田義人(deco/編集者・ライター)

台湾の高速道路のサービスエリアがアツい!

休日の日中のサービスエリアは大混雑!

このコーナーでたびたびお勧めしている台湾での自動車の運転(レンタカー)。クルマがあれば、台湾の各地に点在する絶景スポットや、豊かな自然にも簡単に触れる事が出来る上、旅の疲れも随分と軽減されるので効率的です。また、クルマを運転する事で、公共交通では味わえない台湾人特有の交通慣習、さらにそこから台湾人の素顔を見る事も出来るはず。是非次の台湾旅行では、クルマに挑戦してみてください。ところで、台湾でクルマを運転していると、たびたび寄ることになるのが、高速道路でのサービスエリアです。

サービスエリアには知られざる地方名産がズラリ!

台湾のサービスエリアの構造は、日本の高速道路のそれとほぼ同じです。駐車スペースにクルマを停め、トイレなどの用を足すという流れは日本同様。さらに施設内にはフードコートやお土産ショップがあるのも日本同様。でも、別の入り口付近から賑やかな音楽が聴こえてくるぞ…と思つて向かってみると、特にウマク聴こえるわけでもないカラオケを歌い続けるオジサンがいたり、楽器を演奏する人、大道芸のようなパフォーマンス、口上を加えながら包丁を売る人がいるのは日本のサービスエリアと違うところ。その人混みと相まって、さながら「夜の昼屋」のような感じもする台湾のサービスエリアですが、ここでの僕の最大の楽しみは土地土地の名産・物産を購入する事です。

近年、台湾の高速道路は全線 ETC となり、料金所が廃止されました。高速道路の利用運賃は、各クルマに搭載された ETC によって計算されるもので、「お、台湾は高速道路が全部タダなのか」と思っていると、後でしっかり請求されるわけですが、料金所がなくなったおかげで、クルマは目的地まで延々ブツ飛ばし続ける事となり、一瞬たりとも気を抜く暇がなくなりました。だからなのでしょう、料金所があった頃と比べると、各サービスエリアに立ち寄る人が増えたように映ります。特に休日の日中は駐車スペースを探すだけでグルグル、やっと見つけてトイレに行っても空きを探すのにグルグルという事も少なくありません。しかし、どれだけ混雑していても台湾のサービスエリアにはつい寄りたくてしまう魅力があるのでした。



台湾のサービスエリアは地元で根ざした物産や料理を楽しむことが出来る!

また、これは主観ですが、こういったサービスエリアでの「地元」お菓子はえてして安く美味しく、さらにレア度も高いのでお土産には最適です。台湾ブームが来て、台湾の定番お菓子を口にする機会がどんどん増えましたが、こういったサービスエリアでゲットしたア土産は、台湾通をも唸らせるものになるはず。また、これは主観ですが、こういったサービスエリアでの「地元」お菓子はえてして安く美味しく、さらにレア度も高いのでお土産には最適です。台湾ブームが来て、台湾の定番お菓子を口にする機会がどんどん増えましたが、こういったサービスエリアでゲットしたア土産は、台湾通をも唸らせるものになるはずです。

Photo de TAIWAN 第四回

台湾在住20年写真家・熊谷俊之

新都市 老梅緑石槽

毎年3-5月頃、淡水をさらに北上し台湾最北端に位置する富貴角燈塔を目指す、台湾でも唯一ここでしか見られない浸食された岩と海藻で構成されるこの景観に出会うことができます。撮影日時：2015年4月



※本年より新たに写真で台湾を伝えるコーナー「Photo de TAIWAN」が始まりました。台湾在住20年の日本人写真家・熊谷さんの写真を通じて、まだ知らない台湾を発見してみてください!



台湾語で もっと臺灣

台湾では中国語の他に、台湾語も広く使用されています。台湾特有の言葉を覚えて台湾への理解を深めましょう!

～花の名前編～	
台湾語：インフォイ	台湾語：ムイフォイ
日本語：桜	日本語：梅
中国語：インファー(櫻花)	中国語：メイファー(梅花)
台湾語：ランフォイ	台湾語：ハイオア
日本語：蘭	日本語：カラ
中国語：ランファー(蘭花)	中国語：ハイユー(海芋)

※台湾語は地域により様々な言い回しがあります。同コーナーでは一般的によく使われる台湾語をカタカナで紹介しております。

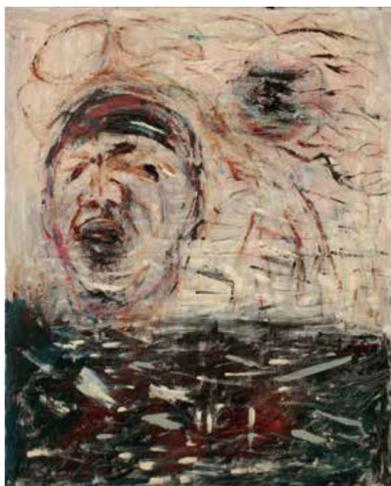
広告



日本人が知らない台湾の近代史

揺れ動く国際情勢の中で台湾という小さい島に住むことを余儀なくされた人々の心に潜む

不安 慟哭 恐れ 叫び 希望 勇気



李素貞

創作油絵

個展



台湾の与謝野晶子

李素貞さん個展に寄せて

非常にインパクトの強い絵がたくさん描かれていました。

黒い画面、太く歪んだ線、エドヴァルド・ムンクの『叫び』を連想させるような変形した顔、これらの作品を観て、正直息が詰まるような想いをしました。しかし、絵を描いた目の前に居る李素貞さんは、大変明るくふくよかで、お話し好きな女性でした。画風としては、世界的には少数派の、しかし確固たる背景と歴史に裏付けられたコブラ派(思想を絵で表現する)に属しているとの事でした。

全身からは2人の子を産み、守り育て上げてきた母としての逞しさと、国家や社会に、媚びない、何者をも頼らないという分野こそ違え、あの与謝野晶子を彷彿とさせるような自立・自活の気概が放たれていました。

作品からは、思想というよりも台湾の風土そのものが母親の情念となって凝縮されているように感じを受けました。台湾の風土が李素貞さんの遺伝子にしみ込み、彼女が成長して母性を発芽させる時期になると、これらの絵のため

の筆を運ばせたのではないかと考えるほどでした。暗い絵だけではありませぬ。先住民を描いたものには、青空の下のほのぼのとした日の光が恵まれて

「国とは王を□(まもる)と書く。国の覇権をめぐる争いなど、この台湾の地とは無縁である。風光煌びやかな台湾の風土。この地上の楽園において仲睦まじく生きる無数の命たち。これらの尊厳を母の愛で守らなければならぬ。」

フリージアグループ 代表 佐々木ベジ

4月5日(水)〜9日(日) 東京芸術劇場 「李素貞作品展」
コブラ派としてとも有名な画家・李素貞さんですが、日本での個展は初めてです。日本と台湾のさらなる友好を祈念して、今回は電話予約者千名様を無料招待いたします。先約順です。このような機会はほつたにありません。この機会をどうぞお見逃しなく。お一人でも多くの方のご来場をお待ちしております。
2017年4月吉日 フリージアグループ 代表 佐々木ベジ

一人の母親が描いた台湾
a mother paints Taiwan
一個母画台湾



揺れる海 母の眼で 護る島



池袋西口 東京芸術劇場 5F ギャラリー1 台湾アートの空間
118坪の大ギャラリーに台湾の画家・書道家他台湾アーティスト作品を展示
主催：日台佐佐木芸術交流協会 フリージアグループ
個展 お問合せ先 **03-6635-1777**
<受付>9:00 ~ 19:00 担当 関口
東京芸術劇場
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-8-1
JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分。駅地下通路2b出口と直結しています。



先約 1,000 名様 無料招待!

先約順優先!
今すぐ上記の電話まで

入場料 **無料** 要電話 **予約**



http://www.freesia.co.jp/art/index.html

後援：産経新聞社・台湾新聞社・台北駐日経済文化代表處 台湾文化センター